

企画展

# 昭和100年

## 国土地理院の測量と地図



昭和30年代頃の測量風景



昭和35年(1960年)導入  
測量用航空機「くにかぜ」



昭和58年(1983年)  
南極での測量



平成9年(1997年)設置  
電子基準点「つくば3」



平成26年(2014年)完成  
石岡VLBI観測施設



昭和34年(1959年)  
伊勢湾台風洪水被害状況図



昭和40年代  
一等水準測量路線図



昭和44年(1969年)編集  
土地条件図「東京東北部」



令和元年(2019年)撮影空中写真



昭和5年(1930年)測図 1万分1地形図「日本橋」



昭和38年(1963年)撮影空中写真



令和元年(2019年)刊行 御即位記念地図

入場  
無料

2026年 7月14日(火) ▶ 9月23日(水)

地図と測量の科学館

9:30 ▶ 16:30 ※入館は 16:00 まで

休館日: 毎週月曜日(休日の場合は順次翌日)

昭和  
100年  
1926—2026



国土地理院  
Geospatial Information Authority of Japan

茨城県つくば市北郷1番



# 開催にあたって

## 企画展

### 昭和100年 国土地理院の測量と地図

#### ■あいさつ

令和8年(2026年)は、昭和元年(1926年)から数えて満100年となる節目の年です。この100年、日本は戦争と復興、高度経済成長、急速な都市化やインフラ整備を経て、国土と暮らしの姿を大きく変えるとともに、地震や台風、豪雨などの自然災害にも繰り返し見舞われてきました。

国土地理院は、こうした日本の歩みの中で、国土の姿とその変化を記録し続けてきました。都市の広がりやインフラ整備、自然災害による地形の変化や被災状況などは、測量成果として残され、国土の移り変わりを伝えるとともに、現在を理解するための大切な資料となっています。

本企画展は、「昭和100年」関連施策として、昭和期の国土地理院の測量と地図作成の歩みを振り返るとともに、平成以降のデジタル・宇宙技術の進展や国土強靱化等、社会環境の変化に対応してきた国土地理院の役割と使命の変遷を紹介します。

本企画展を通じて、測量と地図の重要性への理解を深めていただくとともに、昭和を顧み、その経験や教訓を共有することで、歴史の先にある現在、そして次の時代の国土や社会づくりを考えていただく機会となれば幸いです。

#### 【主な展示内容】

- 昭和へのバトン 明治・大正期の測量
- 戦前・復興期の地図づくり
- 高度経済成長を支えた測量
- 宇宙技術で国土を測る
- 地理空間情報の高度活用を目指して
- 御即位記念地図(大正、昭和、平成、令和)
- その他